

水田たより 2月号

令和7年2月3日

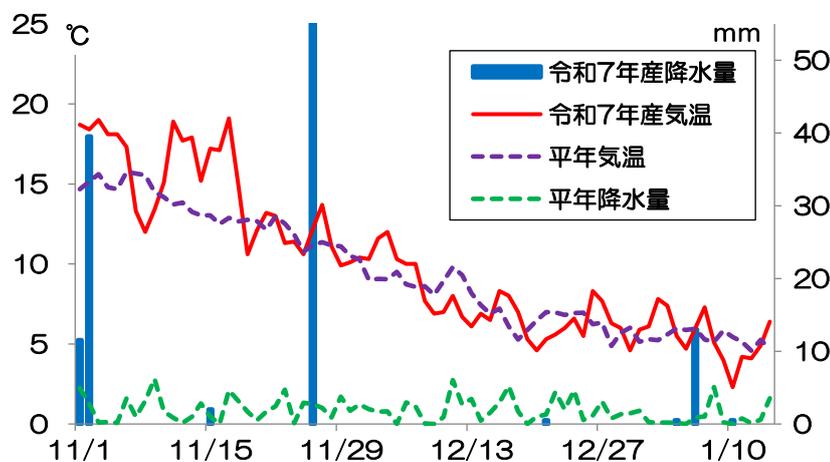
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

麦 気象状況と生育状況

11月上旬中旬は気温が高く推移しましたが、11月下旬以降は、気温が平年よりもやや低く推移しています。そのため、11月上旬以降播種のほ場では生育がやや遅く進んでいますが、11月上旬播種の一部ほ場では生育が早く進んでいます。また、集中した降雨はあるものの、積算降水量は平年と比べ少なくなっています。

<気象状況>



R6/11/1~R7/1/26の概況
 ◇積算気温 828℃(平年 762℃)
 ◇積算降水量 135 mm(平年 169 mm)
 ◇積算日照時間 513 時間(平年 457 時間)

<生育状況>

地域	品種	播種日	過去3か年との比較 (1月 27日時点)			
			茎数	草丈	葉齢	葉色
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	11/17	やや少	やや小	遅	同程度
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/7	少	小	やや遅	濃
	大麦「ファイバースノウ」	11/5	やや少	やや小	早	やや濃

麦 穂肥を施用しましょう！

麦類は2月上中旬に入ると、幼穂形成期に入り、生育が旺盛になります。幼穂形成期に肥効が低下すると、穂数が減り、収量に大きく影響しますので、**穂肥を施用して、肥料切れを起こさないようにしましょう。**窒素目安量は2~2.5kg/10aです。

11月上旬播種の場合、生育が早く進み、肥料切れする恐れがありますので、注意してください。

なお、幼穂形成期以降は幼穂を傷つけるため、麦踏みは行わないようにしてください。



幼穂形成期の草姿

水稲

令和7年産水稲種子休眠注意！！

■ 令和6年産種子生産と休眠の関係性

水稲は、出穂期以降の登熟期間において、高温に当たると休眠が深くなる傾向にあります。休眠が深いと、十分な発芽能力を有している種子でも発芽が揃わない可能性があります。令和6年産水稲では、出穂期に当たる7～8月において、全国的に記録的な高温に見舞われたため、令和7年産水稲に用いる種子において、**休眠が深い可能性が高い**です。そこで、しっかりとした充実した苗を作るために、以下の対策を行いましょう。

■ 対策

①保管方法・・・ハウスを締め切り保管する等、**乾燥した暖かい場所**で保管してください。また、休眠が深い品種（「オオナリ」、「北陸193号」等）では、育苗器を40度に設定し、7日間加温する休眠打破方法もあります。

②塩水選・・・比重1.13(水10Lに対して食塩2.1kg)で塩水選を行い、粒の揃った種子を使用しましょう。塩水選後は、種籾を水でよく洗い、乾かして保管してください。また、温湯消毒を行う場合は、塩水選後速やかに行なってください。

③浸種・・・浸種開始後24時間は必ず、**水温10℃以上**を確保しましょう。その後、日平均積算水温が**100℃以上**になるように浸種を行いましょう。

④催芽・・・催芽は、**80%以上**の種子が写真のように**ハト胸**になっていることを確認できたら完了です。



催芽終了時の写真

出典：JA 全農みえ、三重県米麦協会

水稲

白未熟粒対策！土壌の状態に合わせた土づくり

近年、登熟期の平均気温が高くなっており、令和6年産では高温障害による白未熟粒の発生が多くみられました。白未熟粒の発生は、**登熟期に窒素養分が不足すると助長されます**。

水稲が吸収する窒素は土壌からの窒素分が60%、施肥による窒素分が40%といわれており、**土壌条件に大きく影響を受けます**。土づくりに取り組み、水稲の根張りを良くし、養分の供給を促進しましょう！

①状態の把握

日頃の観察に加え、数年に1度は**土壌診断を実施し土壌の状態を確認**します。

②土壌改良材の選択・施用

診断に合わせて、**ケイ酸資材、石灰資材など積極的に**施用しましょう。可能であれば堆肥などの有機物も施用しましょう。

③稲わらのすき込み

稲刈り後早めにすき込むことで、保肥力の向上・カリ・ケイ酸・窒素の増加等が期待できます。春すき込みでは、湛水後に土壌が急激に還元化する恐れがあるので、注意しましょう。

④作土層の確保

根張りを良くするため、ロータリーの回転速度を遅く耕起し**深さ15cm程度の作土層を確保**しましょう。浅耕化した土地は徐々に作土層を広げましょう。

⑤継続

土づくりは単年では効果を実感できない場合が多いです。数年間**継続して取り組み**、定期的に施用する資材を見直し**改良していく必要**があります。

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索